
○議長（藤井 要君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

（午後 2時50分）

◇ 深 澤 守 君

○議長（藤井要君） 一般質問を続けます。

通告順位5番、深澤 守君。

（5番 深澤 守君 登壇）

○5番（深澤 守君） 通告の通り一般質問を2点ほどさせていただきます。

1、防災について、避難タワーを複数建設する予定ですが、これからの計画をお答えください。

2、町長の政治姿勢について、①、2019年3月町長は不信任決議を可決された。不信任決議を受け、町長は何が原因なのか反省されたのでしょうか。

②、職員の不祥事の多発や、複数の職員の長期休暇の問題について、町長はどのように原因分析し、改善策を考えておりますか。

③、町長は町民の声を聞くとか、情報収集という目的での外出が多くあると聞きます。どのような成果が得られたのかお答えください。

④、町長が提出する議案について修正及び否決が非常に多いが、町長は何が原因だと考えておりますか。

⑤町長の思い描く公僕とはどのようなもののでしょうか。

以上、壇上より質問させていただきます。

（町長 長嶋精一君 登壇）

○町長（長嶋精一君） 深澤議員の質問にお答えいたします。

大きな1、防災について、そのうちの1つ、避難タワーを複数建設する予定ですが、これからの計画をお答え下さい。

お答えします。当町は、地形的な特徴から地震・津波が発生した場合、わずか数分で津波が押し寄せることが予想されております。津波から命を守るためには、津波が来る前に、津波の来ない高さまで避難することが必要であり、短時間で避難の高さを確保するためには津波避難タワーの設置は有効な手段となります。現在、避難タワーは町内に1箇所あり、その他に津波避難ビル10箇所、津波避難場所42箇所があり、津波避難計画に基づき、各地区にお

いて避難場所を設定し、年3回の避難訓練を行っております。今後も、確実な避難を実現するため、避難経路の整備を進めるとともに、避難に時間のかかる区域には避難タワーを整備し、避難体制を構築してまいりたいと考えております。

2つめ、町長の政治姿勢についてでございます。そのうちの1つ、2019年3月町長は不信任決議を可決された。不信任決議を受け町長は何が原因なのか、反省したのかという質問でございます。

お答えします。平成31年3月の議会定例会において「独断専行」、「議会軽視」、「パワハラ」との理由から不信任決議が可決されましたが、独断専行では行政運営ができないことは、予算が議会で議決されなければ執行できないことから明らかであります。そのため、私は常に議会には丁寧な説明をすることに心がけてまいりました。私は、職員に対しては、時には厳しく、時には褒め、指導をしておりますが、これもよりよい職員になってもらいたいという願いがあるからであり、職員は町民のために一生懸命働いていることは私は認めております。議会との意思疎通が不十分な場合、結果として町民に不安を与えることにもなりますので、より議論を交わして出た結果についてはお互いが歩み寄り、住民の福祉の増進という同じ目的に向かって行動してまいりたいと思います。

町長の姿勢の2つ目、職員の不祥事の多発や複数の職員の長期休暇の問題について、町長はどのように原因分析し、改善策を考えているのかという質問でございます。

お答えします。誰もが働きやすいと感じられる職場環境が整うと、職員のモチベーションは自然と高まり、結果として仕事の効率が上がり生産性が向上することと言われております。そのためには、職場内の良好な人間関係を築き、風通しをよくすることや、残業が少なくなるような効率的な仕事の進め方を考えること、休暇を取りやすい環境の整備など全庁的に改善を図っていく必要があると感じております。その対策としては、来年度から予定している宿直の廃止や、毎月第2第4水曜日をノー残業デーとして実施しており、毎週行う課長会議では、各課長に対し課内で困っていることがないか、業務上のことや職員の状況について確認を行っております。また、事務処理のミスにおいても、課内のチェック体制をしっかりとっておれば防げるものであり、各課長にはダブルチェックを徹底することを指示しております。長期休暇の職員に対しては、医師の指示に従い療養に努めてもらい、職場復帰する際の配慮もしっかりと行ってまいりたいと考えております。

政治姿勢の3つ目でございます。町長は町民の声を、聞くとか、情報収集といった目的での外出が多くある、と聞きます。どのような成果を得られたのかお答え下さい。

私は町長に就任する前から、町民満足度の高い町にしたいと考えておりました。そのために、「農林水産観光業の一体推進による経済活性化」、「災害に強い町づくり」、「医療・福祉の充実」の3つの基本理念を掲げ、町政を進めてまいりました。町政を進めていくうえでは、町民の皆さまの声なき声を聞き、人の意見に対し謙虚に耳を傾けることは何よりも大切なことであり、現場に出て直接対話することは行政施策の成果につながっていくと考えております。コロナ禍で町内がどのような状況なのか、現場の声を聞いたり、町が推し進めている事業等について、町民の声を聞くことができましたので、今後の行政運営に活かしてまいりたいと考えております。

町長の姿勢について4つ目でございます。町長が提出する議案について、修正及び否決が異常に多いが、町長は何が原因と思っているのかということでございます。

私は、町民満足度の高い町を目指し、町のため、町民のためになる政策実現に向けて、議案を提出しております。その上で、議会で修正・否決されたことは、本当に残念でありました。行政運営においては、議会の議決がなければ執行できませんので、丁寧な説明を心がけ、議員の方々のご意見を賜り、改めるところは改めて柔軟に対応してまいりたいと思いません。

町長の政治姿勢の5番目、最後でございます。町長の思い描く公僕とは、どのようなものかということでございます。

お答えします。地方公務員は、地方公務員法に基づき公務員としてどうあるべきかを規定されております。一番の基本は、地方公務員法第30条に規定されているとおりでございます。「すべて職員は、全体の奉仕者として公共の利益のために勤務し、かつ、職務の遂行にあたっては、全力を挙げてこれに専念しなければならない」ということであります。すなわち、町のため、町民のためになすべきことを行うことで、地方自治法第1条にある住民の福祉の増進を図ることであると考えます。

以上、深澤守議員の質問にお答えしました。

○5番（深澤 守君） 一問一答でお願いします。

○議長（藤井 要君） 許可します。

○5番（深澤 守君） ご答弁ありがとうございました。まず、1番目の防災についてお伺いいたします。先ほど、町長の回答の中に、避難経路の整備というものがありませんでした。東区の方と南区の方にちょっと言われたんですけど、相生堂の所と伊那下神社の所がやはりちょっと使い勝手が悪いんじゃないかと、いう話を伺いまして、私も見に行った所、相生

堂に関しましては、津波が来る直前までしか、避難経路がないということがありまして、伊那下神社については上り口の所がちょっと濡れていて、危険な状態っていう所もあったんですけど、もう一度その所を見直すとかですね、江奈の入り口の所、ちょっと高い塀があつて危険だというような所も見受けられます。もう一度、危険箇所等をですね、チェックして改めるという考えは、ございますか。

○総務課長（高橋良延君） まさに、おっしゃる通りですね、避難経路の整備というのは非常に重要であると思います。今現在、町としても、避難路の整備ということで、町が主体として行うものと、あるいは原材料で地域の方でこういったことやりたいよ、という要望があつて原材料でやるという2つの方式をとっておりまして、相生堂と伊那下神社についても、避難路の整備はすでに23年度、27年度にやっておるわけですが、今言ったような問題も出てきているというのもあります。だもんですから、ここの所は地元の区長さんをはじめ、そういった避難路の整備の関係については、今の現状等を協議しまして、必要であれば整備をしていくと、体制は整えていきたいと思っています。あと、ブロック塀の関係についても、今、避難路の危険箇所のブロック塀については、その撤去あるいは補強の補助金の制度を設けております。これも、かなり大阪の地震があつて以降、非常にブロック塀の補助の申請が多くなって、これをかなり活用して、そういった整備してまいりたいなということで思っています。

○5番（深澤 守君） 先ほども町長おっしゃっていたとおりですね、町長、防災に強いまちづくりというものを盛んに話しておりまして、就任の時には防災監を異動なしでやりたいということをおっしゃってました。しかし、コロナ禍の中で、防災訓練というもの、性格がちょっと変わってきたのではないかというふうに思っております。今回その・・・、9月1日防災訓練をやっている、その中での反省点だとか、そういうものがありましたら、総務課長か町長にご答弁お願いいたします。

○総務課長（高橋良延君） まさに、今のコロナ禍の形でこういった防災どうするのかという、特に避難所の関係というのが、今とりざたされておまして、松崎町においても、これはいち早く、これ大変だなということで、6月に避難所のコロナ禍におけるコロナの避難所対策どうするかっていうことで実際の訓練も行いました。今回の9月の防災訓練においても、岩科地区において岩科学校、旧岩科小学校を使って実際に、そのコロナを想定している避難所の運営訓練、実際に行ってます。そういったことで、これを各地区にですね、もっと広げて実際に・・・、こう現場で動けるようにしていきたいなということで思っ

てる所でございます。

○5番（深澤 守君） 今、反省点をお伺いしたんですけれど、総務課長にお伺いしたいんですけど、この9月1日の参集訓練、これ町長来ていなかったと、連絡も取れなかったって話なんですけれど、これって問題ないんでしょうか。

○総務課長（高橋良延君） 連絡は取っております。それと町長も7時52分ですか・・・、には登庁をいたしております。完了しております。

○5番（深澤 守君） 7時50分ということですね。はい、わかりました。では、来ているから問題ないという発言でよろしいですか。

（○総務課長（高橋良延君） 「はいはい、取れています。」）

○5番（深澤 守君） はい、わかりました。これ、もしですね、来ていなかった場合、どうなります。これ、危機管理できていないって話になりますけれども、その辺は答弁間違いないですね。確認させていただきます。

（○総務課長（高橋良延君） 「はい」）

○5番（深澤 守君） はい、わかりました。

次に移らせていただきますけれど、公僕について、これ、ちょっと、順番変えてやらせていただきます。下からやらせていただきます。これあの、町長ですね、就任当初の・・・、じゃなくて・・・、議会ですね、就任当初に公僕について語られてると思うんですが、それとですね、総務課の車の鍵の上に、車の私用禁止っていう張り紙が貼られてたんですけれど、これ確認されていますけれど、誰かこれ、私用で使ってるっていうことですか。確認させてください。

○総務課長（高橋良延君） 一般的に車の庁用車というのは公務の関係で使用するというところでございます。ただ、そういったことの間違った使用のないようにという形での掲出ということでございます。

○5番（深澤 守君） 例えばですね、公用車でコンビニに弁当を買いに行くとか、例えば、新聞があります。鉛筆ありますよね、鉛筆はこれ、役場の鉛筆を持って行って自宅で使うっていうのは、これ私用になるんですか。それとも公務で大丈夫なんでしょうか。

○総務課長（高橋良延君） コンビニへ、そのものの目的のためにということで行くと、そういったことの私用という面では、考えられるかなと思いますけども、我々も下田の出張行く時にお弁当買ったりとか、そういったことで寄るということはありますので、その所の、その内容ということであろうかなと思います。鉛筆について、その所のについて

は、通常、こういうふうに使っているものは、町のそういった購入したものということで、極力ここをこういうことで使う、ここで使うということであろうかなと思います。

○5番（深澤 守君） やはりですね、町長はそういう所で厳しいというふうなことをおっしゃっておりますし、そういうことを常々言ってらっしゃるんでね、そういう所はしっかりとやっていただきたいと。で、こういうことが元々書いてある自体ってすごく恥ずかしいことですよね。と思うんですよ、僕。公務員として自覚を持ってやっていただきたいと、もし、そういうことがあるんならしっかり、町長、指導して、このようなことがないっていうか、やっぱ、松崎町の職員はしっかりとした立派な職員だって言われるようなことを、指導していただきたいんですが、その点についていかがでしょうか。

○町長（長嶋精一君） 鉛筆を自宅に持って行って使ってるとか、そういったことは、私は一切見たことがございません。我が役場の職員は、しっかりその辺は、わきまえてやっているというふうに信じております。深澤議員はこの質問を一連として私と一緒に約3年・・・、3年にはなりませんけれども、私が町長になってそのくらい、深澤議員も議員になってそういうふうな期間をとおしているんですけれども、一貫として長嶋町長の批判をやり続けているというのは・・・、これは、はたして生産的な仕事かなあと、町民から見てコンセンサスが得られるんだらうかなという風に思うんです。あまり余分なことを言うと、また、まずいものですが、いずれにしろ、公私混同というか、職員はやっていないと私は思っております。

○5番（深澤 守君） 町長、あんまり言うのはあれなんですけれど、僕は批判しているわけじゃなくてですね、例えば、小さいこと1つずつでも、これどんどん大きくなるんで、色々な腐敗だとか、そういう問題が起こるんです。そういう事例ってたくさんあると思います。ですから僕は批判しているのではなくて、こういう事例があるから早めに直していただけますか。やっていただけますかっていう話で、僕は決して長嶋町長を批判してるわけじゃない。やっぱ、役場の中を良くしていただきたい、改革していただきたい、それは松崎の町民の皆様最大の利益になると思って言ってるだけで、決して長嶋町長の批判をしてるって言うことじゃないってことだけは、理解していただきたい。それは町長、誤解だと思いますよ、僕に対する・・・、そこのところはちゃんと認識していただきたいんですが・・・。それとですね、次に、町長が出してきたものに対して、議会がいつも否決するとか、そういうものが多いというふうなことは、我々の認識としてもあるし、町長もそう

いう感覚があると思うんですけど、これ、一番の原因って、町長は説明してきたけど、議会の方が答えないっていう、そういう趣旨の答えも聞こえるわけですが、これあの例えばですね、我々議会と一部の議員なんでしょうけど、議員と町長と当局・・・、特に町長との信頼関係が取れてないから、これ会話だとか対話だとか、話し合いついていうのができないんじゃないかと思っております。一例をあげますと、診療所を作る時にですね、我々は弁護士先生の回答がどういうものか確認できないから、つていうことを確認した時に、質問した時にもですね、町長は何を言ってきたかって言うと、弁護士はそれを言っている、間違いない。じゃあ、その資料を見せてくれって言った時に、いや、それは弁護士の都合だから見せられない、で、質問した時にじゃあ、法律的根拠は、つて言った時に、いや、弁護士が言っているからそういうふうなものだからつていうことで、ずっと言ってきたわけですね。明確な説明つていうのは、なされないままなんかこう、ブラックボックスに入ってる形で説明されました。ましてや、これ、町長の方に、確認したいんですけども、一時、副町長の時に話題になりましたことなんですけど、届いた文書の中にですね、複数の議員が町長の方に、議員がいじめているって事、町長に報告したという記載があったんですが、町長、これ、報告受けているんですか、これ。まず、最初、その所だけお伺いしたいんですが・・・。お答え願えますか。

○町長（長嶋精一君） これは、関連質問ですか。

（○5番（深澤 守君） 「関連質問です。」）

（○町長（長嶋精一君） 「なんの関連質問ですか。」）

（○5番（深澤 守君） 「信頼関係の関連質問です。」）

○議長（藤井 要君） あれですか、深澤議員、2の④が中心になってこれ今・・・。

（○5番（深澤 守君） 「はい。」）

○議長（藤井 要君） 2の④、町長が提出する議案について、修正および否決が異常に多いが町長は何が原因だと考えておられますかと・・・。

（○町長（長嶋精一君） 「全然、関連質問じゃないよ。」）

（○5番（深澤 守君） 「信頼関係・・・。」）

○5番（深澤 守君） それについてですね、この信頼関係つていうのは先に僕、説明したと思うんです。その中でですね、複数人の議員が、いじめについて町長の方に報告したという事が、ほかの文書で出てきたんですけど、こういうことつてやられると、信頼関係つてとれないと思うんですが、町長これ本当に、報告され・・・受けてるんでしょうか。お答

え下さい。

○町長（長嶋精一君） 何の質問ですか、関連質問。

（○5番（深澤 守君） 「関連質問。」）

（○町長（長嶋精一君） 「いつの時の関連質問・・・。」）

（○5番（深澤 守君） 「****。」）

（○町長（長嶋精一君） 「どういう***全然関係ないよ。」）

○議長（藤井 要君） 深澤議員、2のところ・・・、何番とかって、関連があれば・・・。

○5番（深澤 守君） ようは、この議決をする時とか、話をする時っていうのは、町長と議長の信頼関係っていうのが取れていないと思うんですよ。自分の感想として。じゃあ、その信頼関係をなぜ取れないかっていうと、ようは、先ほど言ったような、文書が色々出てくるわけですよ。こういう・・・、例えば、そのいじめについて、議会が多数の議員から町長の方に報告があったとかっていう、そういうものが常に出てくると、信頼関係取れますか、これ・・・。その点があるもので、いじめについて、この複数の議員から町長の方に報告がなされたかという事を聞いているわけです。

○議長（藤井 要君） 町長その問題に対して、じゃあ一回答弁して、ちょっとアレしますので・・・。

○町長（長嶋精一君） どういう場面で、どういう事があって、町長に報告があったのか、ということは抜きにしましてね、私は、公平・公開これはモットーとしております。従って、絶対隠し事はしておりません。そして、今どういう報告があったということについても、今の考え方で同じで隠すことはございませんし、公にいつでもする用意はございます。あの弁護士さんとの話し合いについても、全く私どもは、自分の都合のいいことばかり言っているわけではなくて、弁護士先生の話聞いてですね、それを伝えているわけですから、一切の隠し事はありませんので、公開公平というものは守っておるということをここで宣言いたします。

○5番（深澤 守君） 深澤議員に申し上げます。ちょっと時間止めてください。

（○8番（土屋清武君） 「議長。」）

○議長（藤井 要君） 時間止めてください。時間止めてください。

（○8番（土屋清武君） 「休憩、休憩。」）

○議長（藤井 要君） 今、時間を止めさせておりますので・・・。深澤議員ちょっと・・・。

○議長（藤井 要君） 時間を再開してください。続けます。

○5番（深澤 守君） すみません、今ですね、町長言った、僕、この弁護士が言ったという話、これ一切していなかったんですが、なんで、町長、弁護士が、関連の文書を出したっていうのをご存じなんですか。僕、弁護士って一言も言っていないんですが……。なぜ、ご存じなんですか、これ……。

○議長（藤井 要君） 町長聞いていなかったようでありますので、もう一度……。

○5番（深澤 守君） 今、答弁の中で、弁護士さんと話でどうのこうのって弁護士さんの話出てきましたけれど、私、この話をしているときに、弁護士の話なんて一切していないんですけど、なぜ、町長、これ弁護士が出てきた話しているんですか。

（傍聴席ざわつき）

○5番（深澤 守君） じゃあ、これ、やめます、やめます。

○議長（藤井 要君） もう一度、すみません。

○5番（深澤 守君） じゃあ、やめます。

○議長（藤井 要君） じゃあ、続けます。

○5番（深澤 守君） 町長、私たちですね、もう、4番の話をしますけど、これ私たちもですね、町民の皆さんの……やっぱ、町を良くしようとかなんとかするっていうことで、一所懸命頑張ってるんですけど、今までのパターンだと、ちゃんと説明っていうのが、二転三転してると思うんですね。芯の通った計画っていうのがなかなか出されてこなかったり、今回のお風呂についてもそうだと思うんですけど、やっぱりしっかりと計画っていうのが、出てこない、我々としても、議会で通すってことは、なかなか難しいんですけど、その辺は、やはり、自分たちのしっかりと計画を立てて、説明しているという認識はございますか。

○議長（藤井 要君） 町長、答弁できますか。

○町長（長嶋精一君） 先ほど鈴木議員と田中議員の質問にあった通り、答えた通りに、私どもの方としては、絶対間違っていないというふうな信念でもって上げるわけですが、いろんな考え方があります。今後については、いろんな考え方についても柔軟に時代背景等も取り入れながら、話を進めていきたいなと思っております。決して私どもの方は、独断専行でやっているわけではございません。そして、まちづくりというのは本当にこの町を良くしようと思うならば、全く違うね、旧ソ連とアメリカのようなイデオロギーの違いというのはないはずだと私は思っております。必ず、統一というか、交わる所があると、本当に私心なく、この町を良くしたいんだという気持ちがあれば、それほどの開きは私はな

いと思っています。私はそれを今後ですね・・・。とは思っても、やっぱり色々意見があるということは、事実でしょうから、それについては真剣に話を聞いてね、進めてまいります。最初からアメリカと旧ソ連のようなことは、私は無いと信じていますから。以上でございます。

○議長（藤井 要君） 深澤議員に申し上げます。例えば、2の町長の政治姿勢についてもですね、2の職員の不祥事の多発や・・・もし、いろいろ情報があれば、そういうところですね、捉えながら、質問していただければ、相手の方にも、わかりやすいと思いますので、そういう点に注意しながら、質問してください。

○5番（深澤 守君） じゃあ、3番に移らせていただきます。町長よくですね、出かけられて、町民の声を聞くという話で回ってられると思いますが、休業補償とですね、依田邸の件もですね、これ一所懸命、町長、町民の声を聞きながら、判断するのであれば、このような事態は起こらなかったのではないかと思うんですね。本当に、これ町民の声を聞いてらっしゃるんでしょうか。なんか、他の目的で歩いてるんじゃないでしょうか。本当にこれ聞いてきましたか、依田邸のことや休業補償のことについて、町長の耳に入ってますか、回った時に・・・。ご回答いただけますか。

○町長（長嶋精一君） 今の深澤議員の質問は、ちょっとわからない所があるんですけども、私は、声なき声を聞く、サイレントマジョリティを大切にすることというのは、私の政治信念であります。これをやっけて行かないと、このような小さな町はこれをやっけていかないと駄目になっちゃうんですね。大きな声を出す所ばかりに、耳を傾けていくと、必ず間違いが起こると思います。したがって、私は、声なき声を聞く、フェイストゥーフェイスということでやっております。それによって、かなり実行してきたことがございます。議員時代にもあります。例えば下田松崎線知っていますね、梅月園さんがあって、松崎高校の入口のバス停がございまして。ある住民からあのバス停の横に松高生の登下校の時に松高生がいっぱいになってしまっていて、松高生自体も危険だ。あるいは、下田から松崎に向かってくる車、松崎から下田に向かって行く車、あるいは松崎高校に松崎から左折する車、下田から右折する車、非常に危ないという声がありました。私は登下校の時間帯に3日間位・・・、月、水、木とかね、そういうふうに行って、現地を観察しました。これは、危ないということでもって、町にお願いをし、議員の時ですから、町にお願いし、それと東海バス、それと松崎高校に折衝をした。そしたら、町の方で、下田土木事務所松崎支所に、交渉してくれて、今のような形に造作をしてくれました。待機所を作ってくれたというこ

とであります。そういう運動もやっておりますし、新聞を読みましたら、小学校中学校のトイレが和式だともう使えない人が多いと、そして、我慢して、児童が病気になってしまふ。あるいは、それがもとでいじめにあってしまうというような新聞記事が載っております。それで私は町、教育委員会に交渉して、全てではないですが、一部和式をおいて、残して、ほとんどを洋式にいたしました。

(○5番(深澤 守君) 「町長、聞いているということによろしいでしょうか。」)

○町長(長嶋精一君) そうです、その通りです。そして、今ね、このコロナ禍で、和式、和式・・・。

(○5番(深澤 守君) 「もう、いいです、結構です。長いんで、結構です。」)

○町長(長嶋精一君) 洋式を・・・、***したいということで・・・。

○議長(藤井 要君) 町長、手短に。

○町長(長嶋精一君) ということで、町民の声を吸い上げているということでございますのでよろしくお願いいたします。これは僕の議員の時の行動でございます。

○5番(深澤 守君) 今回の休業補償の問題、それから・・・、声を聞いているっていう話ですね、町長回っているんであれば、コロナ禍の休業補償をしっかりとやってくれという話も聞いているはずだと思います。その後、町長のところに、住民の方が行って助けてくれっていう話をしていると思うんですよね。そこでも、住民の声は届いているはずですよ。その時に町長は何を言ったかという、これを自助努力でやってくれと・・・最初ですね。僕と一緒に銀行に行くから銀行で金を借りてくれって、だから、休業補償を出さないという話を、これしてらっしゃいますよね、最初ね。新聞にも載っているから確実な話です。町長ね。

(○町長(長嶋精一君) 「議長、いいですか。」)

○5番(深澤 守君) 色々歩いているっていうんだったらね、成果っていうんだったらね、こういうところも聞いてきて、ちゃんと町民の意見を聞いてきて、これ、町政に活かすためにやっているんじゃないですか。違いますか。っていうことは、町長、今やっている事は、ほぼ、成果として表れていないっていう認識しか得られないんですけど、その点についていかがでしょうか。

○町長(長嶋精一君) 休業補償についてはね、かなり、今、深澤議員が間違った議論を言

っております。私は休業補償をいたしませんなんていうことは一切言っておりません。新聞に、そういう風なことを・・・、ニュアンスを書いてありましたけども、そんなことは言っておりません。議会の皆さんも一緒に我々と、休業補償をお願いしに来た事業者と一緒に話をしておりますけれども、議員の方々も町長はそんなことを言っていないよというように、新聞記事に対して、批評をしております。私はそういうようなことは、一切言っておりません。銀行に行って、融資を一緒にお願ひしようと勧めたのは、それは、事実であります。ただし、休業補償をしないなんてことは一切言っておりませんし、心にも考えておりません。

○5番（深澤 守君） 今結構、町長、外を歩いていると思うんですけど、町民の中からですね、今はコロナ対策等を見ると、町長辞めてもらったほうが一番コロナ対策じゃないかっていう話になっておりますが、その話というのは町長の耳に届いておりますか。

○町長（長嶋精一君） 深澤議員が町長を辞めろと言ったのは、これで2度目であります。去年の不信任の前に町長辞任しろと言いました。たった1年3ヶ月しかいない町長をね、辞めさせるとは何だという声も、町民からも上がりました。そしてたった1年数ヶ月しかやっていない議員が何を言っているんだというような話もありました。これを言い始めるとまた、陰悪なことになります。私はね、町のために、町民のためにやっておるわけですので、いずれにしろ選挙は後1年ぐらい経ちますとあるわけですので、長嶋町長が必要でないということであれば結果として選挙に出るわけです。そして、議員の皆さん方も、遠くから選挙があつて、最初の考え方と大きな違いがあるんじゃないかというようなことは松崎町民はしっかり見てます。私はそう思います。だから、言ってる事と行動というものは、言行一致ではないと松崎町民はしっかり見てます。そこら辺を深澤議員には、返答いたします。

○5番（深澤 守君） ちょっと時間がなくなりましたので2番の方に行かさせていただきます。今ですね、役場内が少しざわついてるっていうものが、あるんじゃないかと思っております。それはですね、町長が議会の時に、2月6日の議会の時にですね、船の話をしていらっしゃいます、船の話・・・。海図も目的も持たない船は潰れてしまうという話をなされてると思う・・・、それは2回なされていると思うんですけど・・・、今の状況はまさしくですね、予定が変わります、計画自体がコロコロ変わるとかですね、例えばその教育委員会の事務局長が1年間に3人変わるとかですね、会計が3人変わるとかですね、ある職員に関しましては、その1年間に3回異動が起きるといふ計画性のなさっていうのが、

役場の混乱を招いてるんじゃないかと思えますけれども、その辺の認識っていうのを町長
ごぞいますか。

○町長（長嶋精一君） 今の役場の内部が混乱しているというようなことは私は全く認識し
てません。私の感度が鈍いわけでもなくて、認識しておりません。ただ、深澤議員は8月
の初めでしたか、私のところに田中議員と一緒に来て、これからは一緒に協力していこう
じゃないかということを私に声を震わせながら言ったことというのは、一体あれは何だっ
たんでしょうか。それを、逆に知りたいと思えます。いや、田中議員が言ったんじゃない
よ。

（○1番（田中道源君） 「捻じ曲げていますよ。」）

（傍聴席から笑い声）

○議長（藤井 要君） お静かにお願い致します。

（○5番（深澤 守君） 「反問権、認めます。」）

○議長（藤井 要君） お静かにお願いいたします。お互いにですね、不規則発言は気をつ
けながらお願いしたいと思います。

○5番（深澤 守君） 今の反問権にあたりますけど、議長認めますか。

○議長（藤井 要君） まあ、反問権というよりは、漫才がお好きなんじゃないでしょ
うか。

（傍聴席 「しっかりして、議長。しっかりしなさいよ、議長。」）

（○5番（深澤 守君） 「では、答えなくていいですか。」）

○議長（藤井 要君） そのまま続けてください。

○5番（深澤 守君） 町長、ほんとに今、役場内が混乱してるって本当に認識ってないん
ですか。本当はないですか。お答えください。

○町長（長嶋精一君） 具体的に言ってください。どういうところが、混乱してますか。私
は混乱していないと思えます。粛々と業務をやっていると、という風に思えます。どうい
うところが混乱してますか。

○5番（深澤 守君） あの、いつか忘れちゃいましたけども、町長、議会の時に、あの職
員がトラブルがあるとか、そういう話っていうのは質問してらっしゃいますよね、議員の
時に……。今ですね、松崎・・・職員が80何人くらいですか・・・、しかいないのにね、仕事
の内容で、休んでいる人間が3名、1人辞めちゃいましたか・・・、それとですね、まあ、
色々な問題があったと思うんですよね……。これ、ちゃんと原因追及して、改善策という

のをとっていかないと町政が滞って、これ町民の皆さんの利益に反すると思うんですが、これはいかがでしょうか。

○総務課長（高橋良延君） 職員の管理については総務課の関係でありますので、特にやっぱりここはメンタルヘルスの面でも、総務課ではやっております。現在3名の職員が休職ということでありましてけれども、やはりそれぞれの理由ということがございます。なにも、誰が、悪いから、あれが悪いからということではなくて、やはり、それぞれの職員のなんで休職に至ったかということとはしっかりと、やっぱり、そこは我々も突き詰めて、それに対して改善を促していくということで、先ほど言ったように、やっぱり一番の基本ということは、仕事環境云々もありますけれども、やっぱり職場、役場内の良好な人間関係って先ほど言いましたけれども、そういった繋がりという、風通しということもありましたけれども、そういったことって、一番基本の所になるんじゃないかなということをやっています。何か困ってたら、誰かが手助けするとか、そういった所が、やっぱり役場職員の中で自然発生的に起きて、職員を助けていく、お互いに、そういうことがですね、今後、できてくればなというようなことで考えております。また職員組合もありますので、職員組合からは夏と冬に2度ほど要求がございます。そういった中で、職場内のそういった環境とかメンタルヘルスの面含めて要望もありますので、そこは真摯にですね、職員組合の方に改善策について、答えていきたいなと思います。

○5番（深澤 守君） 5分延長をお願いします。

○議長（藤井 要君） 5分延長いたします。

○5番（深澤 守君） 議会・・・、不信任を出す時にパワハラってということが、一因となったんですけどね、町長、あの・・・、職員さんでもですね、町長は先ほど、言っていたように愛を持って、職員を指導しているってことを言ってらっしゃったんですけど、町長はそのつもりで厳しく指導するってということで強く言われてるっていう事もあると思いますけど・・・、受ける側はそう受けない場合もあるんですよ。人は強い人間もいるし、精神的に弱い人間もいるという所なんですけれど、その辺をやはり、人を見るなり、言い方を変えるなりっていうそのようなことを改善するおつもりってございますか。

○町長（長嶋精一君） 深澤議員のおっしゃる通りです。私はだれ構わず怒っているってことじゃないですよ。あの考え方として、深澤議員のおっしゃる通りだと思います。それについては、私は守っているつもりです。褒める時は褒めて、いけない時はいけないと言わないとやっぱり町民が見てるわけですから、そこらへんは実行していきたいと思います。

考え方というのは、その通りだと思います。

○5番（深澤 守君） 今ですね、町長は、確かにコロナの時期ですし、それからこれからその世の中がガラッと変わる時に役場だとか、行政の力ってのは凄く重要になってくると思うんですけど、本当に町長は今の役場の現状を把握して改革なり改善していくというこの考えってのはございますか。

○町長（長嶋精一君） 民間企業と違う所が役場にはあります。しかしながら、役場のいい伝統もございます、悪い所もあると・・・、ということもあるわけですが、特にこのコロナについてはですね、私が考える以上のことを、考えて実行してくれる人も出てきましたので、私は非常に、よかったなと思っております。その事については、町民が直結して、町民の得になるわけですので、私の考えがすべていいということではなくて、若い人の考え方が、非常に良い柔軟な考え方をする職員もおります。そういう人たちが、勃興してきましたから、私は、安心して仕事を・・・、どういう仕事をするのかなという形で見ております。ですから、必ずしも、役場の組織がガタガタしているとか、そういうことは、ございません。あの営業的でどんどんどん町民のためにやる部署と、しっかり税務関係を守る部署と私は連携が、整っていると思います。今、税務と言いましたけれども、健康福祉課全てであります。それぞれの持ち分で、ポジションを守っていると私は感じております。以上です。

○議長（藤井 要君） 深澤君あと2分ですので、まとめながら質問してください。

○5番（深澤 守君） とりとめのないちょっと変な一般質問になってしまいましたけど、私、町長が最初に当選なさった時に松崎を変える変革ということで、出てこられたと思います。議会に出られた時もそういう感覚だと思います。私思います。一番今、町を変える、役場を変えるには、町長に辞任していただく事だと思います。町の中にもそういう声がたくさんあります。これから松崎、世の中変革期に今の状態では多分、松崎は潰れると思います。本当に松崎を変える、助けてくれるのであれば、町長、辞任してください。よろしく願いいたします。

以上で一般質問を終わらせていただきます。

（○町長（長嶋精一君） 「議長、今の言葉は・・・」）

○議長（藤井 要君） 町長に反問権を認めます。

○町長（長嶋精一君） 私は選挙で選ばれました。あなたも選挙で選ばれたんですけども、こういう議会の時に町長を辞めろというのは、これであなたは3回目ですけどね、よく

よく考えてください。あなたと支援者は、喜ぶでしょうけれども、本当にこの町を良くしようと思ってる人は、きっと私の方を支援してくれると思います。したがってまだ3年満たない時に、私は辞任する気は全くございません。むしろ、あなたが辞職したらどうですか。

(傍聴席、笑い声)

○議長(藤井 要君) 深澤議員あと1分残ってますけれども、どうしますか。

○5番(深澤 守君) まとめさせていただきます。声なき声を聞くと町長はおっしゃっております。声なき声は町長辞任してくださいという声もたくさんあります。そのことだけはしっかりお伝えしておきます。私は町の皆さん、自分の職務を考え、町を良くするために辞任する気はございません。

以上終わらせていただきます。

○議長(藤井 要君) 以上で深澤守君の一般質問を終わります。

(午後 3時46分)